

「自分とみんなのしあわせをつくる」子の育成

～歯科保健を窓口にした健康づくりと心身がしあわせな学校づくり～

岐阜市立徹明さくら小学校

1 学校紹介

本校は、明治6年開校の徹明小学校と昭和13年開校の木之本小学校が平成29年に統合されて設立し、本年度、開校6年目となった。織田信長公ゆかりの岐阜市の中心部に位置し、15学級、児童数325名の中規模校である。



統合以前より両校とも健康教育や学校歯科保健活動に力を入れて取り組み、徹明さくら小学校になってからもその伝統を継承して、市や県で歯科保健や健康、安全に関する数々の表彰を受けている。また、統合により開校した本校は二つの地域をもつが、コミュニティ・スクールという枠組みの中で融合し、二つの地域が学校の教育活動を積極的に支援していただいている。保護者も、PTA活動を中心に、学校と地域が連携した行事や登下校時の見守り活動等のボランティア活動に多数参加するなど学校の活動に協力的である。

2 学校経営方針と健康づくり

【学校の教育目標】

自分とみんなのしあわせをつくる ～かしこく やさしく たくましく～



「さくらリボンプロジェクト」による「スクールプライド（新たな価値）」の創出

個が生きる学び

エンジョイバンド

あいさつ・掃除

歯みがき・体力

学校の教育目標にある「しあわせ」とは、心身や社会環境が良好な状態であるウェルビーイングの意味を含むものであり、自分のみならず、学校の仲間、家庭、地域、社会という「みんな」の「しあわせ」をつくる主体者として児童自身が行動する力の育成を目指す目標である。特に本年度は、全校が本校に入学した児童となる記念すべき年であり、「さくらリボンプロジェクト」と銘打ち、「新たな価値（スクールプライド）」をつくり出す年にすべく取り組んでいる。

「スクールプライド」の具体的な取組場面は、上記の4つであるが、健康づくりに関しては、歯科保健を窓口としたヘルスプロモーションによる生きる力の育成と、心身がしあわせな学校づくりをテーマに、学校・児童・保護者・地域・学校三師・関係機関等が「チーム徹明さくら」として協働して推進している。

3 健康づくりの推進体制

すべての教育活動を通し、健康づくりに関する様々な教育活動を意図的・計画的・発展的に関係付け、組織力を生かして取り組んでいる。校内の中心となる健康安全指導部会、校内外をつなぐ組織としての学校保健安全委員会、地域とつなぐ学校運営協議会・支援推進委員会、保護者とつなぐPTA組織等、それぞれの組織が有機的に関わり合って、教育・管理の両面の活動が充実するような体制を整えている。また、学校三師・防災士・スクールカウンセラー・スクールロイヤー等、外部の力を積極的に取り入れている。

4 特色ある取組（歯科教育を健康づくりの窓口として捉え広げていく実践）

（1）みんなで一緒に（J）（T）（Y）！～歯の健康を窓口を目指せ元気なからだ～

（J）自分から（T）楽しく（Y）やってみようをキャッチフレーズに、どのような状況でも自らの健康を守り、主体的に行動できるようになることを目指して取り組んでいる。歯と口腔の健康づくりを窓口にして全身の健康への関心につなげ、「よりよく対処できる力」として生かせるようにし、自分から「やってみよう！」と意欲を育む健康教育を推進している。

①望ましい歯みがきが日常となる指導（さくら3周みがきの定着）

学校歯科医とともに考えた「さくら3周みがき」を毎日実践している。歯みがきタイムでは学級の歯みがきリーダーが模型でみがき方の手本を見せ、歯科指導の場となるようにしている。模型を扱う児童は事前に何度も練習して伝え方の工夫を重ねていく。児童から児童へ伝えることで仲間の頑張りを認め合い、自分も「やってみよう！」といった活動意欲を引き出している。

また、日々変化する感染状況を職員全体で意識し、手洗い場での密集やブラッシング時の飛沫を防ぐために外で行う「青空歯みがき」と、教室で口を閉じてみがいて、うがいは低い姿勢で行う「エチケット歯みがき」とを選択して実践している。このように、感染予防と歯科保健の推進、双方の視点から状況を判断し柔軟に対応しながら取り組んでいる。



【歯みがきリーダー】



【青空歯みがき】

状況変化

柔軟な対応



【エチケット歯みがき】

② ICTの活用 学校歯科医による歯科指導動画の配信

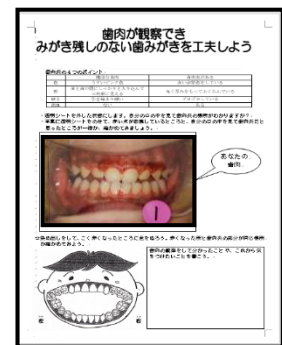
学校での歯みがき指導が困難な状況の中で、児童が丁寧な歯みがきを継続していくために、学校歯科医とともに動画制作に取り組んだ。児童がいつでもどこでも「やってみよう！」と思える教材とするために、発達段階や学年の指導目標に沿った内容になるように相談を重ねた。動画の配信とともに、「染め出し・歯みがきカード」を配付することで、家庭での歯みがきの習慣化や歯と口の健康について家族で学習できるようにした。



【歯肉炎予防のみがき方】

③健康課題解決に着目した個人カルテの作成

歯肉炎が課題である高学年を対象に、歯肉炎改善を目指す目的で個人カルテを作成した。口腔内写真には歯科医が歯肉炎の場所を明記し、シートをめくると自分の振り返りができるようになっている。一人一人の口腔の状態に合わせたものとなっており、清掃状況が不十分な場所や歯並びと歯肉炎との関係がわかり、個人の課題解決に向けたものとなっている。児童は「歯肉炎になっていたことに驚いた。これから歯みがきで改善していきたい。」と、自分の口腔を客観的に見る資料となり、歯みがきへの意欲につながった。



【口腔内写真撮影】

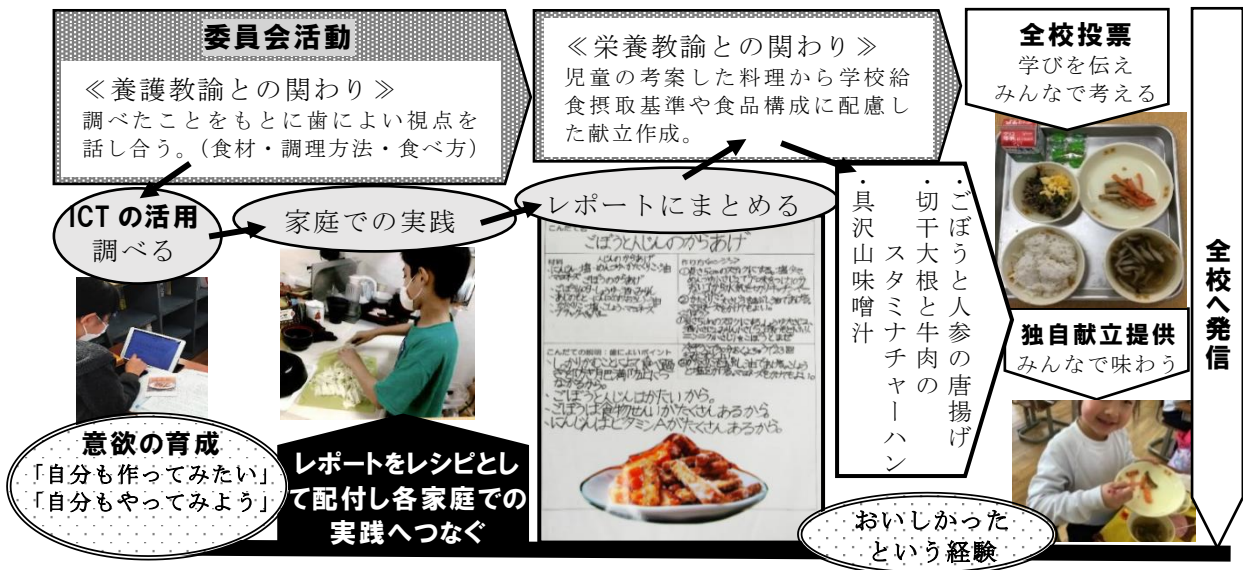
④チームで関わる歯科検診と個別指導

児童の発達段階、歯・口の健康状態に応じて効果的な指導を推進するために、歯科検診を個別の課題解決学習の場として、より実践的に学ぶ大切な機会と捉えている。歯科検診を通して、自分のこととして主体的に考えながら、工夫・改善を実感していくことで、どのような変化があっても対応できる力を培っていけるようにしている。課題解決の過程で学校歯科医・歯科衛生士に励まされながら、自分の目標をつくることで、「やってみよう！」というやる気につながり日常へつなげることができた。



⑤食育とのつながり 歯によい献立考案

学校の教科や保健活動の中で、「よい歯＝歯みがき」の意識は育っているが食に関わる生活の大切さも伝えたいという委員会児童の願いから、歯によい献立考案に取り組んだ。献立を考えるなかで、「歯によいとは何か」という視点から考えを深めていった。調べ学習をした後、実際に家庭で調理してレポートにまとめた。児童が考えた献立から給食で提供可能な料理を栄養教諭と相談し、バランスのよい献立の組み合わせを提案した。全校投票を行い、みんなで考えた独自献立を決定した。その給食を味わうことで、自分もやってみたくて意欲が高まり家庭での実践につながった。



⑥健康教育の学びを地域へ広げる

保健学習から得た興味・関心を総合的な学習の時間に歯・口の健康づくりの課題として取り上げ、健全な機能保持の大切さを学んだ。生きていくうえで生活の質を様々な側面から高めることの大切さに気付いた児童は、「コロナ禍で学校での歯みがきの意識が低くなってしまった」「体力が低下している」などの課題に目を向けた。そして、歯の健康を窓口に全身の健康についてみんなの意識を高める活動をしたという児童の願いから、地域の行事で健康ブースを企画、学校歯科医や地域の方々の参画・協力を得て健康意識の向上につながる活動を展開した。



(2) 自分もみんなも「しあわせ」な学校！～安全・安心な環境づくり～

学校がしあわせな自己実現の場となるためには、安全・安心な環境が基盤である。児童の心身の健康を支える環境を整え、様々な危機から児童の心身を守る危機管理体制と危機管理能力の育成に重点を置いて取り組むとともに、児童が夢や目標をもち、その実現に向けて前向きに生きる力を育成する教育活動を展開している。

①「外からの脅威」から身を守る取組

災害、交通事故、病気やけが、犯罪、熱中症等、「外からの脅威」から身を守るため、地域や保護者、外部機関と連携を図りながら、安全な環境を整え、安全な行動がとれる力を付ける取組を行っている。

地域ボランティアの見守り隊	県警の連れ去り防止教室	少年課の性犯罪防止教室	学校薬剤師の薬物乱用防止教室	OLで家庭とつないだ防災学習	中学生による緊急引き取り訓練
					

②「内なる脅威」から心を守る取組

いじめ、不登校、児童虐待等「内なる脅威」に対し、未然防止や早期の適切な対応ができる危機管理体制を確立し、一人一人の心に寄り添いながら危機対応力を高め、自他の人権を尊重し合う取組を推進している。

いじめの未然防止

いじめ未然防止の取組例として「Wサポート」がある。児童が担任以外に相談しやすい教職員を自分で決め、その「Wサポーター」にカードを渡しに行くことで、児童と「Wサポーター」との信頼関係が生まれ、日常的に「Wサポーター」が声をかけたり表情を観察したりできる。

また、スクールカウンセラーがオンラインで「SOSの出し方・気付き方」について話をした後、学級で学年の発達段階に応じた気持ちの切り替え方やSOSの発信について話し合う授業を行った。さらに、教職員の危機対応力を高めるため、市独自に配置している「主任いじめ対策監」による聴き取りのロールプレイ研修を行った。



児童会によるシトラスリボン

コロナに関する誣索・差別・誹謗中傷をなくしたいという児童会の提案で続けているものが「シトラスリボン」の取組である。自分たちが身に付けるだけでなく、「多くの人に配って、地域全体が温かく思いやりにあふれた地

域にしたい」と全校で作ったシトラスリボンを公民館に置いていただいた。この活動をきっかけに、温かい「おかえり」の気持ちがコロナ感染に関連した児童だけでなく、不登校傾向等により、学校や教室になかなか足が向かない児童にも向けられていることは、嬉しい波及効果であった。

③夢や希望を拓げ主体性を育む「エンジョイバンド」

統合以前から60年以上にわたり続く金管鼓笛隊「エンジョイバンド」は地域の行事や市のパレードなどで演奏し、地域の人々に愛されてきた。20年以上前に作られたユニフォームは、男女で色やデザインが違い、ジェンダーフリーの観点から違和感を口にする児童があった。そこで、開校6周年の記念事業として、ユニフォームの刷新に取り組んだ。

児童が自分たちでユニフォームをデザインし、保護者や地域、地元企業と協働しながら完成させる活動を描いた。ユニフォームの刷新を通して、児童が夢や希望を拓げ、自分たちで主体的に夢を実現させる活動となった。



地域のアパレル産業についての講話を聞く



家政科大学生によるデザイン画の出前講座



全校児童による121点のデザイン画コンペ



児童、地域、保護者、デザイナーによる審査

「ぼくの二次元が三次元になった。」

デザインを担当した児童は、地元アパレル企業によるユニフォームの試作品を見てそう語った。夢を現実にした瞬間である。

完成したユニフォームを着て、地域のホールを貸し切り、地域の方々へ感謝を込めて、コンサートを開催した。「わたしたちの演奏で、地域の皆さんがしあわせになりますよう」という児童の言葉に続き、温かな管楽器の音色が響いた。



5 まとめ

児童の前向きな心が、健康づくりに主体的に取り組む姿になった手応えを感じている。6年生へのアンケートで、「自分にはよいところがある」という項目への肯定的回答が4月は73%、11月は83%と上昇した。様々な人との関わりや自ら発信する活動が、自己肯定感や自己有用感を高めたと考える。今後も「自分からやってみよう」と思える活動が、自分とみんなのしあわせをつくる主体的な態度の育成につながると信じ、心身の健康づくりに取り組んでいきたい。